

松本議員

環境政策について

問①環境自治体会議の成果を市民に早く公開し、実践活動に結び付けるべき。

②これからは省エネルギーのライフスタイルと産業構造の転換、自然エネルギーの開発が求められる。勝山市の方策は。

答①環境自治体会議の各分科会・

意見交換の要旨を掲載された報告書を、秋頃の完成を目的に編集作業を行っており、それをぜひご覧いただきたい。各分科会の成果については、市民・企業との連携を強め、来年度の施策に反映していく。

②国民が総力を挙げて省エネに取り組む一方で、より一層の自然エネルギーの活用の可能性を追求していかなければならない。自然エネルギーの事業化については、設置及びランニングコストなどの課題をいかにクリアするか、自然条件や設置目的等を検証し、調査・研究を進めていく。

その他の質問
・農地の獣害対策としての林地緩衝帯について

農業の後継者対策について

問①高齢化が進む農業の分野で後継者対策は待ったなしの状態。

非農家の就農促進のため、農家の空き家を利用できないか。

②農業の6次産業化は雇用の場を拡大する。農産物の加工、販売を促進する勝山市の方策は。

答①関係機関と連携し、田舎暮らし体験事業の継続や定住する住居の手配なども含めたきめ細やかな新規就農にかかる支援などが、一人でも勝山に定住されるよう、努めていく。

②農林水産物を活用した特産品開発や販路開拓を支援する「かつやま逸品開発・販路開拓事業」を継続するとともに、直売所の活性化に対し、関係課と連携を図り調査研究を行っていく。



合鴨農法の田圃

倉田議員

市が再生可能エネルギーに取り組み目的について

問再生可能エネルギーの活用に期待が高まっており、市内でも、水力発電や太陽光発電、風力発電の設置が期待されている。しかし、

もともとこれらは採算的にはあうことはなく、発電量も市内で消費される全電力量の0・1%以下に

しかならない。市では、再生可能エネルギーについての取り組みを検討するセクションを設けられたが、その目的を伺う。

答今後、雪冷熱エネルギーの活用や、豊かな水資源を活用した小水力発電の可能性について検証していき、生み出されるエネルギーの利用のみならず、まちづくりや市民の省エネルギー意識の高揚、市のイメージアップなど、多面的な視点でとらえた活用・導入について、研究を進めていく。

長尾山総合公園の第2期事業区域の整備方針について

問自然公園を造成した他市での事例で、人が手を入れすぎ、自然保護の目的が逆に自然の生態系を損

その他の質問
・市長の4選出馬表明について
・環境自治体会議の評価と今後の取り組みについて

なってしまう事例がある。長尾山総合公園の第2期事業区域の整備方針として、市長は自然を生かした公園としていくとされているが、実施されるときには現在の生態系が損なわれないように取り組むべきと考えるが、見解を伺う。

答今後、第2期事業区域を整備するにあたっては、環境自治体会議かつやま会議の趣旨に沿うよう自然環境を保全しながら、その環境を活用できるような整備を目指す。



モリアオガエルの卵